

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：32647

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K10953

研究課題名（和文）「放課後等デイサービス」の看護師支援システム開発と評価

研究課題名（英文）Development and Evaluation of a Nurse Support System for After-School Day Services

研究代表者

藤田 藍津子（Fujita, Atsuko）

東京家政大学・健康科学部・准教授

研究者番号：70721851

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：放課後等デイサービス看護師の役割は、＜医療的ケア児と多様な児へのケアの実施＞＜職場内外の連携＞や＜家族の対応＞＜看護と看護以外の兼務＞＜スタッフ指導の実施＞に至るまで多岐にわたり、＜医療的ケア児中心の療育＞の視点をもった子どもとの関わりであった。課題には、看護師不足による負担、業務環境の整備不足、実践に対する葛藤があり、知識不足への研修開催、放課後等デイサービス内外の連携の必要性が示唆された。これらの結果により、放課後等デイサービス看護師がwebで活用できる支援システムの内容は、知識の活用、拠点形成、語りのデータベース、看護師への期待（家族の声）から成るものであった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

放課後等デイサービス看護師支援システムを作成したことにより、看護師一人ひとりが経験値で行っていた支援の質が保たれ、本来の放課後等デイサービスの役割である発達支援、家族支援へつながると考えられる。学齢期の障害のある子どもにとって、放課後という地域における居場所の保障と、発達の保障となり、豊かな人格形成の一助になると思われる。

研究成果の概要（英文）：The roles of the after-school day care service nurses were diverse, ranging from "providing care for children with medical care and a variety of other children," "collaboration within and outside the workplace," "dealing with family members," "concurrent duties of nursing and non-nursing," and "providing staff guidance," to "interacting with children from the perspective of medical care-centered medical education. The challenges included the burden caused by the shortage of nurses, the lack of a working environment, and conflicts in practice, suggesting the need for training to address the lack of knowledge and for collaboration within and outside of after-school day care services. Based on these results, a support system that can be used by after-school day-care service nurses on the web consists of knowledge utilization, base formation, a database of narratives, and expectations of nurses (family voices).

研究分野：小児看護学

キーワード：放課後等デイサービス 看護師 支援システム

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2012年に児童福祉法が改正され、障害児通所支援は大きく改変された。結果、障害の種別だけではなく、障害が確定されていなくても利用が制限されない「児童発達支援」として学齢障害児の放課後活動と発達支援を可能にした「放課後等デイサービス」などが登場した。「放課後等デイサービス」とは、学齢障害児の放課後等の活動支援を目的としたわが国初の個別給付による事業である。「放課後等デイサービス」は2018年4月の時点で全国に12,278事業所があり、サービス内容の多様さから、具体的に「放課後等デイサービスはこうあるべき」と示すことは困難な状況である。内容は預かり保育を中心とし、絵画・音楽療法や言語訓練、必要な児には医療的ケアを実施している。利用者は、発達障害、重症心身障害児まで様々な障害特性へ対応している状況にある。

本研究では、放課後等デイサービス看護師を対象にした他事業所とのネットワーク形成と看護実践の向上について着目した。本研究全体の目的は、放課後等デイサービスの看護師に対するWebを活用した看護師支援システムの開発である。看護師支援システムは、Webを用いて実際の援助に活かすことができる内容を想定した。放課後等デイサービスの看護師に関する研究に着手してから5年が経過し、放課後等デイサービスの報酬改定による看護師の配置や加算の変更、新型コロナウイルス感染拡大による影響など、社会状況の変化によって新たな問題や課題が生じている。

2. 研究の目的

放課後等デイサービスが急増している中、サービス内容をめぐる問題の解決が緊急課題である。放課後等デイサービスの看護師実態調査では、相談可能な人の不在、研修の少なさによる実践内容や多職種連携に困難感を抱えていることが明らかになった(JSPS 科研費 17K18129 研究代表 藤田藍津子)。次のステップとして、放課後等デイサービスの看護師が一人で抱え込まず、他事業所の職種同士のネットワーク形成と看護実践の向上に着目する。本研究では、放課後等デイサービスの看護師の拠点形成と看護師支援システムの開発を目的とする。

3. 研究の方法

2021年度は、放課後等デイサービスの看護師が活用できる具体的な看護師支援システム(研修プログラム)案を作成するため、この5年間で変化したこと、新たな問題や課題、連携の取り方(多職種、他事業所、地域、医療)研修を実施する際の方法の要望等についてインタビュー調査を実施した。

2022年度は、放課後等デイサービス看護師に要求されている臨床判断能力、特にコロナ禍で求められている内容について明らかにするために、2022年度は、放課後等デイサービスの管理者(看護師)にインタビュー調査を行った結果を分析した。70分のフォーカスグループディスカッションを実施し、SCATの方法にて分析を行い、ストーリーラインを作成した。

2023年度は、放課後等デイサービス看護師、特別支援学校の看護師、大学教員でワーキンググループを作成し、支援システムについて討議を重ねた。ワーキンググループによる討議の結果、放課後等デイサービス看護師がwebで活用できる支援システムの内容が見いだされた。

4. 研究成果

研究開始当初はCOVID-19が落ち着き始めた頃であり、放課後等デイサービス看護師の役割や課題を調査する中で、感染症対応に関する内容が中心となった。創設から10年足らずで、

COVID-19 の感染拡大という社会の危機が生じ、放課後等デイサービス看護師に求められている能力はさらに複雑化されるようになった。放課後等デイサービスの管理者（看護師）へのインタビュー調査では、70 分のフォーカスグループディスカッションを実施し、SCAT の方法にて分析を行い、次のようなストーリーラインが生成された。COVID-19 の影響により、学校の休校に続き放課後等デイサービスが閉所となり、施設関係者が濃厚接触者等になったことで医療的ケア児の家庭内における支援が増えていた。このような背景に伴い医療的ケア児の自傷行為が増加し、保護者は就労制限が重なることでストレスが増大した。一方、放課後等デイサービスでケアを担当する看護師は、体温調節に障害がある子どもたちの発熱時の臨床判断を任されたことで困難を感じていた。その臨床判断に必要な能力として、COVID-19 の知識や医療的ケア児への看護経験を挙げ、医療的ケア児と保護者の健康管理が求められていると考えていた。コロナ禍における放課後等デイサービス看護師に求められる能力として、閉所時には、家族の状況を把握し、利用している児が家庭で心理的に安定し、環境と家族も含めた支援が考えられた。開所時に必要な支援は、発熱を含めた身体的なアセスメントを行う能力と家族も含めた健康管理である。開所時閉所時共に、家族と利用する児の健康管理を行うことが求められていることが明らかになった。本来、利用する児にとって成長・発達をする場である放課後等デイサービスが開所出来ない状況で児や家族にとって様々な影響があり、看護師の臨床判断能力が必要となった。そのような中で看護師たちは行政や他事業所との連携や、不足している知識を求めている。

次の段階として放課後等デイサービス看護師が実践の中で、児の成長・発達の視点でどのような支援を行っているのかを明らかにし、活用できるシステムづくりを行った。放課後等デイサービス看護師へのインタビュー調査、質問紙調査、家族へのインタビュー調査の結果より、放課後等デイサービスでの経験年数が少なく、放課後等デイサービス看護師の役割として＜医療的ケア児と多様な児へのケアの実施＞を行いながら、＜職場内外の連携＞など役割が多岐にわたり、＜医療的ケア児中心の療育＞の視点をもって子どもとの関わりを役割として認識していると考えられた。対象者が回答した多様な児とは、医療的ケア児以外の発達障害や知的障害の子どもであり、看護師が様々な障害特性に対応してケアを行っていた。

放課後等デイサービス看護師は、主に医療的支援を行うために配置(みずほ情報総研,2021)がされている。放課後等デイサービス看護師の課題は、＜看護師不足による負担＞が大きく、＜業務環境の整備不足＞や＜知識不足＞など多岐にわたる内容を課題としてあげていた。放課後等デイサービス看護師配置の主な担当は医療的ケアの援助であり、放課後等デイサービスでは、人員不足による職員への負担が大きく、特に看護師確保は難しい(みずほ情報総研,2021)。放課後等デイサービス看護師は、業務環境が整わない中で、放課後等デイサービス同士のつながりの難しさがあり、人員不足や放課後等デイサービス内の環境整備に課題を抱えながら、自身に対する葛藤や医療的ケアへの責任を感じ、実践をしていると考えられる。放課後等デイサービス看護師が認識する役割を実践するためには、療育やケアに関する知識の向上と、人員不足が改善されるよう、業務環境の整備が必要あると考えられた。

結果、放課後等デイサービス看護師の役割は、＜医療的ケア児と多様な児へのケアの実施＞＜職場内外の連携＞や＜家族の対応＞＜看護と看護以外の兼務＞＜スタッフ指導の実施＞に至るまで多岐にわたり、＜医療的ケア児中心の療育＞の視点をもった子どもとの関わりであった。課題には、看護師不足による負担、業務環境の整備不足、実践に対する葛藤があり、知識不足への研修開催、放課後等デイサービス内外の連携の必要性が示唆された。これらの結果により、放課後等デイサービス看護師支援システムを作成するために、放課後等デイサービス看護師、特別支援学校の看護師、大学教員でワーキンググループを作成し、支援システムについて討議を重ねた。

ワーキンググループによる討議の結果、放課後等デイサービス看護師が Web で活用できる支援システムの内容は、知識の活用、拠点形成、語りのデータベース、看護師への期待（家族の声）から成るものであった。Web で活用できるシステムとして、放課後等デイサービス看護師応援サイトを作成した。当初はアプリケーションを作成する予定であったが、費用が非常に高く、Web による放課後等デイサービス看護師応援サイト(<http://hokago-dayns-ouen.com/>)とした。応援サイトは、「知る」「つながる」「語り」「期待」の4つのコンテンツから構成されている。「知る」では、障害児へ看護に関する知識を作成して公開している。「つながる」では、放課後等デイサービス看護師研究会と称して看護師同士の交流・意見交換を行っている。「語り」では、放課後等デイサービス看護師の語りをデータベース化し、アクセスできるようにした。「期待」では、放課後等デイサービスを利用する家族が看護師に期待することをデータベース化した。今後はさらに、放課後等デイサービス看護師の声を反映させながら、データを修正追加していく予定である。

放課後等デイサービス看護師支援システムを作成したことにより、看護師一人ひとりが経験値で行っていた支援の質が保たれ、本来の放課後等デイサービスの役割である発達支援、家族支援へつながると考えられる。その結果、学齢期の障害のある子どもにとって、放課後という地域における居場所の保障と、発達の保障となり、豊かな人格形成の一助になると思われる。

引用文献

みずほ情報総研(2021). 障害児通所支援事業等における安全な医療的ケアの実施体制の構築に関する調査研究報告書.

https://www.mizuho-rt.co.jp/case/research/pdf/r02shogai2020_0201.pdf

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 藤田藍津子、市江和子	4. 巻 64
2. 論文標題 全国の放課後等デイサービス看護師の役割と課題	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東京家政大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 7-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤田藍津子、齋藤正子、立石和子
2. 発表標題 放課後等デイサービス看護職の臨床判断能力 -コロナ禍で何が求められている か-
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤田藍津子、齋藤正子
2. 発表標題 放課後等デイサービスにおける実践に対する看護師の困難の検討
3. 学会等名 日本小看護学会第32回学術集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	齋藤 正子 (Saito Masako) (30738232)	清泉女学院大学・看護学部・准教授 (33605)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	福井 郁子 (Fukui ikuko) (50759842)	帝京科学大学・医療科学部・講師 (33501)	
研究分担者	葛原 誠太 (Kuzuhara Seita) (60610631)	西九州大学・看護学部・講師 (37201)	
研究分担者	立石 和子 (Tateishi Kazuko) (80325472)	産業医科大学・産業保健学部・教授 (37116)	
研究分担者	両角 理恵 (Morozumi Rie) (80829226)	東都大学・ヒューマンケア学部看護学科・講師 (32428)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関